

2021年度 日本工学院専門学校											
デザイン科 グラフィックデザイン専攻											
基礎デザイン実習A											
対象	1 年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	60	単位	2
担当教員	中田 和彦			実務経験	有	職種	画家				
授業概要											
基礎素養となるデッサンを行う。複数回の作品制作を行う中で、描画力を養うことはもとより、クリエイターとして必要不可欠である感性を高める点に重点を置く。題材に向き合う姿勢と、完成度を高める制作プロセスを日々の制作から習得する。将来を担う人材を育むこと。如何に学生一人一人が自分の感性を高め作品制作に臨み、審美眼を備え創作できるか。自然光で観察する課題、果物などの静物、五感を刺激する題材を用い感覚に働きかけ、三次元の世界から得られた情報を如何にして二次元平面に表現するかを模索できる、応用力を持った人材を育てることを目的とする。											
到達目標											
基本構造を踏まえモチーフを捉えることができる観察力。明暗、立体、質感表現、パースペクティブを中心とした空間構成のテクニックに至るまで、段階を踏んだ課題を通して基本的描画力を身に付けていく。就職活動のためのポートフォリオ用作品も視野に入れ、より完成度の高い作品を作り達成感と自信を得たい。											
授業方法											
基礎から応用へ、様々なモチーフを用いた実習制作を行う。講評会による作品発表の場を設け、作品鑑賞における視点を学び、自身の課題を省み、また他者の作品から刺激を享受することまでを一つの課題の帰着点としたい。作品制作に関連する美術様式や用語を伝え、作品表現の幅を広げる応用力に繋げたい。											
成績評価方法											
課題点 60% 提出課題の得点。実習に参加していても課題提出がない場合は評価しない。 出席点 40% 3回の遅刻で1回欠席とみなす。											
履修上の注意											
制作姿勢を正しく保てる環境作り。現在のような状況だからこそ、学校のアトリエで制作することの意味を強く認知させたい。アトリエの整えられた空間で、緊張感を持ち、それにより高められる題材への感受性を知り、“描く喜び”は“観る喜び”と通底していることを広く学生には体験してほしい。											
教科書教材											
必要に応じ参考資料や参考動画を配布。参考書は必要としないが、学生が求める場合は推薦参考書を紹介する。											
回数	授業計画										
第1回	「グレースケール」 イントロダクション 自己紹介 授業概要 道具説明										
第2回	「立方体」 基本形態（1） パースペクティブ 明暗、立体表現										
第3回	「テッシュ箱」 応用形態（1） レタリング 質感表現										
第4回	「円柱」 基本形態（2） 楕円のパース 明暗、立体表現										
第5回	「缶」 応用形態（2） 曲面へのレタリング 質感表現										
第6回	「球体～光を描く～」 基本形態(3) 黒画用紙に白色鉛筆										

2021年度 日本工学院専門学校	
デザイン科 グラフィックデザイン専攻	
基礎デザイン実習A	
第7回	「野菜・果物」 応用形態(3) 固有色 質感表現
第8回	「静物」 (1) 作品制作 組みモチーフ エスキース作業での構図の企て 複数のモチーフの関係性を表現
第9回	「静物」 (2)
第10回	「手」 人体表現 (1) 手の骨格
第11回	「自画像」 (1) 人体表現 (2) 顔のプロポーション、骨格
第12回	「自画像」 (2) 立体表現と空間表現
第13回	「人物クロッキー」 人体表現(3) ライブ制作
第14回	「友達を描く」 (1) 作品制作 キアロスクーロ技法 (有色地に色鉛筆)
第15回	「友達を描く」 (2)